



福島美術館と裏道さんぽ

—福島禎蔵が愛した土樋・米ヶ袋—

2018年9月21日(金) 10:00~15:00



SMMA 見験楽学ツアー



【発行・連絡先】

仙台・宮城ミュージアムアライアンス事務局
〒980-0821 仙台市青葉区春日町2-1(せんだいメディアテーク内)
TEL 022-713-4483 / FAX 022-713-4482
E-mail office@smt.city.sendai.jp

SMMA
SENDAI MIYAGI MUSEUM ALLIANCE
仙台・宮城ミュージアムアライアンス

見験楽学ツアー 12

福島美術館と裏道さんぽ

—福島禎蔵が愛した土樋・米ヶ袋—

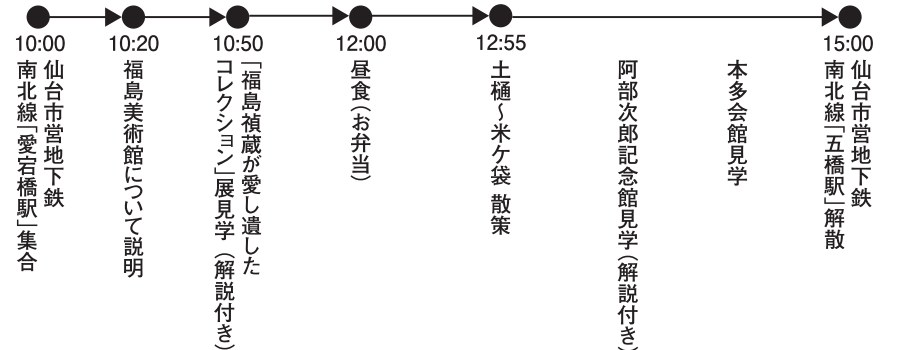
閑静な住宅街・土樋にたたずむ“街のちいさな美術館”福島美術館とその界隈を巡るツアー。福島美術館は今年12月23日より休業となります。今回のツアーでは、福祉と文化の両面から昭和の仙台を支えてきた美術館の創設者・福島禎蔵について学び、「福島禎蔵が愛し遺したコレクション」第5期の展覧会を鑑賞します。また、土樋・米ヶ袋を散策しながら、阿部次郎、本多光太郎ら禎蔵にゆかりの学者・文化人の足跡を辿ります。

案内人 尾暮まゆみ (共生福祉会 福島美術館 学芸員)

宮城県角田市高倉生まれ。1986年3月東北学院大学文学部史学科卒。仙台市博物館解説員を経て、1991年5月より、社会福祉法人共生福祉会が運営する福島美術館の学芸員となり今日に至る。

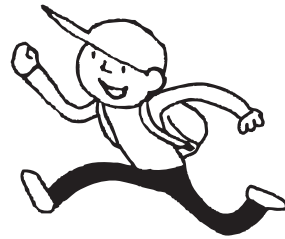
福島家コレクションである江戸期から戦前までの絵画の他、伊達家関連の書画・工芸品等を管理、整理・研究・保存、啓蒙・普及活動にあたる。また、黄檗文化を紹介する講演等の活動を行っている。

コース



持ち物リスト

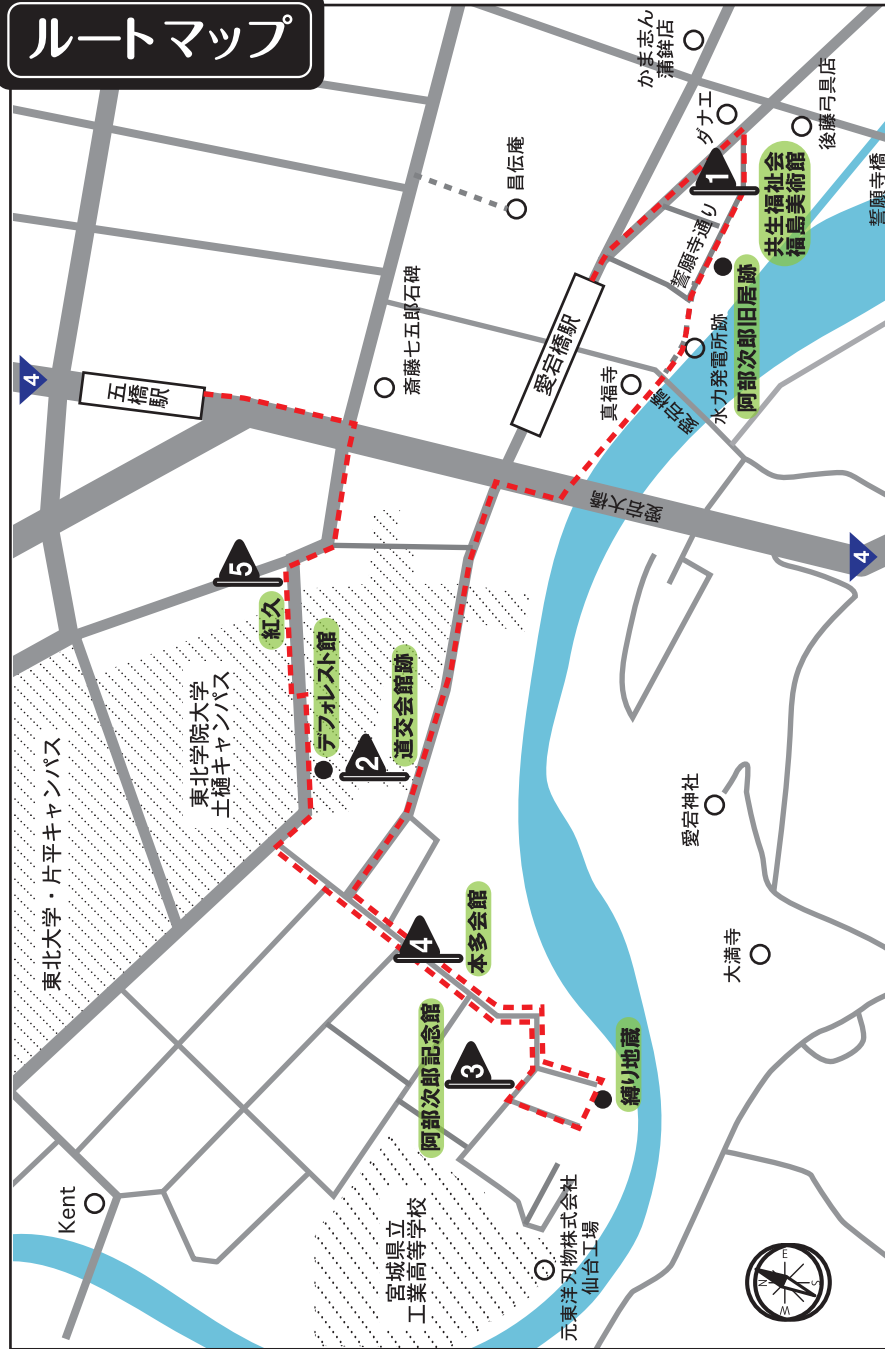
- ◆歩きやすい靴・服装
- ◆飲みもの
- ◆雨具
- ◆筆記用具



注意事項

- ◆大きな声で話すなど、地域の方に迷惑となる行為は謹んでください。
- ◆ツアールートには、道幅の狭い歩道などもあります。車などには十分注意し、各自責任を持って行動してください。特に、歩きながらのスマートフォンは大変危険ですので控えてください。
- ◆当日の天候などにより、コース内容を変更したり、中止したりすることがあります。
- ◆ツアー参加中のけがや病気、事故などについては、SMMA事務局で加入している保険（レクリエーション傷害保険）の適用内とさせていただきます。

ルートマップ



見どころ

ツアーの登場人物たち

【福島禎蔵(1890-1979)】

仙台の福祉や文化の発展に寄与した実業家。福島家は先々代(禎蔵の祖父)の運蔵(1820-1896)が江戸時代後期に材木商で財を成し、先代(父)の與惣五郎(1864-1938)は銀行家・市議会議員として活躍しました。運蔵・與惣五郎はともに仙台ゆかりの画家・作家を支援し、作品を収集していました。そして禎蔵は祖父・父の跡を継ぎ、醸造会社や刃物製造会社の設立、NHK仙台放送局の誘致など実業家として活動しました。また、福祉と文化の両面から社会に貢献することを願っていた禎蔵は、1962年に共生福祉会を設立しました。その後、土樋にある福島家邸宅の一部を共生福祉会に寄付した禎蔵は、1973年にライフセンターも設立します。そしてライフセンターのなかに美術館を併設開館することを目指します。残念ながら禎蔵は、美術館開館を見ることなくこの世を去りましたが、禎蔵の遺志を受け継ぎ、1980年に「福島美術館」は開館しました。

【阿部次郎(1883-1959)】

大正期を代表する哲学者・美学者で、夏目漱石に師事。1914年に自己省察の記録『三太郎の日記』を執筆し、当時の学生に大きな影響を与えました。1923年に東北帝国大学に新設の法文学部美学講座の初代教授に就任し、ダンテ、ゲーテ、ニーチェなどを講義していました。哲学にとどまらず、日本文化、特に江戸時代の芸術についても造詣が深く、日本文化を世界的な視点から捉えようと研究し、後に「日本文化研究所」を設立しました。

【本多光太郎(1870-1954)】

「鉄の神様」「鉄鋼の父」と呼ばれた、材料科学の先駆者で、1916年に当時世界最強の永久磁石とも言われた「KS磁石鋼」を共同発明したことで知られ、鉄や金属に関する様々な研究を発表しました。1911年に東北帝国大学理科大学物理学科の教授として赴任。1916年には臨時理化学研究所第二部(金属材料研究所の前身)を発足。1922年には金属材料研究所を設置し、初代所長に就任しました。その後、1931年に東北帝国大学総長も歴任。



見どころ

1 社会福祉法人共生福祉会 福島美術館 (1980年開館)

「障害を持つ者ももたない者も、平等に鑑賞し、そして後世に伝えられるように」という禎蔵の願いから、運蔵・與惣五郎・禎蔵の福島家三代で収集した作品が寄贈されました。福島美術館のコレクションのなかには伊達政宗の書状をはじめとする伊達家旧蔵品の書画や、宮城・仙台ゆかりの作品、工芸品など約3,000点が収蔵されています。建物の老朽化の影響により今年の12月22日をもって一旦休業することとなりました。

2 道交会館跡 (青葉区土樋/現・東北学院大敷地)

旧制二高の学生寮は様々あり、仏教青年会の「道交会」の自炊寮「道交寮」もそのひとつでしたが、戦災で建物が焼失しました。そこで禎蔵は1972年に福島家が所有していた土樋1丁目の土地1,456㎡を共生福祉会に寄付。その後同地に建物を建て、道交会へ無期限・無料貸与しました。以来、「道交会館」の名で親しまれ、学生寮・仏教道場として活用されました。老朽化と2011年の震災により取り壊され、現在は東北学院大学の駐輪場として利用されています。

3 阿部次郎記念館 (1999年開館)

東北大学文学部の教授を務めていた阿部次郎は、日本文化の特質の究明を目的に、1954年に「阿部日本文化研究所」を設立。阿部次郎没後の1963年に同研究所の施設と5,000余冊の蔵書の一切が東北大学文学部に寄贈され、それをもととして「東北大学文学部附属日本文化研究施設」が発足し、日本文化研究施設米ヶ袋分館として利用されることになりました。その後、1996年に「東北アジア研究センター」に改編され、1999年には阿部次郎の没後40周年を記念し、現在の記念館として開館しました。『三太郎の日記』の草稿や、教授時代に使われていた机、夏目漱石の書簡などの貴重な資料が展示されています。記念館の駐車場には阿部日本

文化研究所設立時の協力者でもあった国学者として知られる山田孝雄と娘の山田みづえの親子句碑が建てられています。

! POINT

阿部次郎邸宅跡

土樋にある福島家の邸宅と阿部次郎の邸宅は数メートルのご近所にあります。また福島美術館には、阿部次郎の和歌短冊などが収蔵されています。さらに阿部次郎の教え子である美学者の佐藤明は、禎蔵の美術館構想を全面的にバックアップしていたなど、福島美術館と阿部次郎には繋がりがあるようです。

4 本多会館

米ヶ袋の閑静な住宅地に本多光太郎の旧邸宅があり、「本多会館」として保管されています。総木造の旧邸宅は、本多光太郎没後、東北大学の客員宿泊所や職員集会所として利用されました。旧邸宅の隣には、本多光太郎の功績を称えた展示室が併設されており、本多光太郎の胸像のほか愛用品などが展示されています。現在は、東北大学が管理しており、平日のみ事前問い合わせのうえ見学可能となっています。東北大学片平キャンパスにある金属材料研究所内には「本多記念館」もあります。

5 紅久

4代・八木久兵衛は1923年「紅久」を株式会社とし、京都の大工や庭師を招いて、田町(現・五橋二丁目)に埋木材を使った建物と庭園を作りました。現在は角に昭和のレトロ感あふれる純喫茶・ベニーが残っています。また、ここで、味噌醸造業もおこなっていたのも、近くに仙台三名水の「鹿の子清水」があったからともいわれています。

SMMA参加館

社会福祉法人共生福祉会 福島美術館



仙台の実業家・福島家3代が収集した作品約3000点を収蔵。平成30年度末で休業します。(展示は12月22日まで)

仙台うみの杜水族館



豊かな日本の海や自然環境を体感できる大水槽。海の生きものたちによる東北最大級のパフォーマンスなど様々なコンテンツを有する水族館です。

せんだい3.11メモリアル交流館



東日本大震災の記憶と経験を媒介に、コミュニケーションを通じて知恵と教訓を紡ぎだし、未来へ、世界へとつないでいく拠点です。

スリーエム仙台市科学館



緑豊かな台原森林公園内に建ち、自然史系、理工系、生活系の3つの展示室のほか、岩石や植物の屋外展示もあります。

仙台市縄文の森広場



山田上ノ台遺跡で発掘された縄文時代のムラを、植生環境とともに復元しています。土器づくりなどの体験活動を実施しています。

仙台市天文台



口径1.3mの「ひとみ望遠鏡」やプラネタリウム、天文展示室等を備えた総合天文博物館です。

地底の森ミュージアム(仙台市富沢遺跡保存館)



富沢遺跡から発見された2万年前の人間の生活跡と森林跡を保存し、公開しています。

仙台市博物館



伊達家寄贈文化財をはじめ、仙台に関わる歴史・文化・美術工芸資料等を収蔵し、常設展では随時約1,000点を展示しています。

セルコホーム ズーパラダイス八木山



世界各地に生息する約500点の動物たちを飼育・展示している東北最大の動物園です。

仙台市歴史民俗資料館



県内最古の洋風木造建築である旧陸軍兵舎を利用し、明治時代以降の仙台の歴史と人々の暮らしを紹介しています。

仙台文学館



明治以降の郷土ゆかりの文学者、土井晩翠や島崎藤村をはじめ、井上ひさし初代館長や現在活躍中の作家を紹介しています。

せんだいメディアテーク



図書館、ギャラリー、スタジオ、映像音響ライブラリーなどの機能を備えた、市民の美術や映像文化の活動拠点です。

東北学院大学博物館



東北学院大学の歴史・文化に関する研究成果をもとに、様々な展示・企画を行う大学博物館。学芸員養成の場としての役割も担う。

東北大学総合学術博物館



大学の研究者たちが世界中から集めた珍しい化石や鉱物、土器や石器、骨格標本、有孔虫、サンゴなどを展示しています。

東北大学史料館



東北大学の記録を保存・公開する日本初の施設で、大学の歴史や魯迅の展示などを行っています。登録有形文化財の建物も見所です。

東北大学植物園



東北大学が設立した自然植物園。仙台城築城後に引き継がれてきたモミの美林があり、天然記念物「青葉山」に指定されています。

東北福祉大学芹沢銈介美術工芸館



人間国宝(型絵染)で日本を代表する染色工芸家芹沢銈介の作品と、氏が収集した世界の工芸品を紹介しています。

東北福祉大学・鉄道交流ステーション



東北福祉大学が運営する駅前の鉄道資料館。鉄道をテーマにした企画展と模型館を中心に広く一般の方にも大学をご利用いただけます。

共生福祉会 福島美術館 今後のイベント

福島禎蔵が愛し遺したコレクション

◎第6期 10/2 (火)～10/20 (土) 文房四宝～書・墨・硯の魅力

伊達政宗筆「鮎貝日傾斎宛書状(茶の湯の稽古)」をはじめ、書家や大名の書や、中国の墨や硯を展示します。

★ミニ個展 後藤夕深 じぞうもじ展「縁」

会期中開催、1階情報コーナー、入場無料

◎第7期 10/30 (火)～11/17 (土) みんなが見たい!この作品

皆さまの投票により出品作品を選考します。イチバン人気は、中林梧竹筆「朱画達磨」と遠藤速雄筆「猫に罌粟図」でした。

★ギャラリートーク 11/17 (土) 14:00-15:00、要入館券、自由参加

★クロージング企画第2弾

紋切りと消しゴムハンコで遊ぼう! 11/17 (土) 10:00-14:00、参加費 300円

◎第8期 12/4 (火)～12/22 (土) 幸せ願う・めでた掛け

開館の翌年から、毎年お正月に開催してきた吉例の展覧会。今回で最期です。「皆さまの幸せ」を願う少し早い展覧会です。

★ありがとうございます!ペイント会 会期中開催、3階通路、要入館券、自由参加

★ミーオカーとタイの文化を楽しもう! 12/8 (土) 14:00-15:00、要入館券、自由参加

★ありがとうございます!トーク会 12/22 (土) 時間内随時開催、要入館券

仙台・宮城ミュージアムアライアンス(SMMA)

仙台・宮城地域のさまざまな博物館が共通の知的資源として協働することで、地域にとってより有益な機能を獲得していくための共同事業体です。各館の学芸員や専門職員が持つ知識やノウハウを集積し、分野を横断した連携イベント、学校教育への協力や地域で活動する人材の育成支援、観光資源の開発など、単館では実現困難な新たな価値の創出を行い、地域のニーズに合った新時代のミュージアムとなることを目指して活動しています。



www.smma.jp

(2018年9月現在)

MEMO



MEMO

